秋田県総合防除実践指標（りんご）

番号	段階			実施項目		主な対象病害虫・雑草	実践ポイント	点数	チェック欄		
	予防	判断	防除	時期	事項				昨年度の実施状況	本年度の実施目標	本年度の実施状況
1	○			新植・改植時	健全な苗木の利用	病害虫全般	根頭がんしゅ病や紋羽病の発病、キクイムシの寄生がない苗を選択し、病害虫の発生に注意して植栽する。	1			
2	○				健全な苗木の利用	黒星病	黒星病菌の薬剤耐性菌が発生している地域からは苗木を購入しないようにする。やむを得ず購入する場合は、植え付け後の経過を観察する。	1			
3	○			冬期～発芽前	せん定	病害虫全般	【重要】 整枝・せん定や間伐等を行い、樹冠内部の通風・採光を良好にするとともに薬剤散布時の散布むらをなくす。	2			
4	○				せん定	腐らん病	腐らん病の発生の多い園地のせん定は、初冬や厳冬期を避ける。	1			
5	○				発生源の除去	害虫全般	古い資材（結束用ひも等）は害虫が潜みやすいので、適宜更新し除去する。	1			
6			○		粗皮削り	ハダニ類、カイガラムシ類等	休眠期に粗皮削りを実施し、害虫（ハダニ類、カイガラムシ類等）の越冬密度を低減する。	1			
7			○	休眠期	マシン油乳剤の散布	カイガラムシ類、リンゴハダニ	カイガラムシ類、リンゴハダニの対策として、マシン油乳剤を散布する。	1			
8			○		腐らん病の削り取り、剪除	腐らん病	せん定時等に胴腐らんの削り取りや枝腐らんの剪除を行う。削り口や切り口は直ちに塗布剤（トップジンMペースト等）で保護し、削りくず等の残渣は集めて、土中に埋める等により、適切に処分する。	1			
9	○			雪融け後	落葉等の処理	黒星病等	落葉、枯れ葉、剪去枝等は速やかに収集して園外へ搬出してから、土中に埋める等により、適切に処分する。	1			
10		○	○	発芽後～落花後	黒星病対策	黒星病等	【重要】 重要防除時期（発芽後～落花後）の薬剤散布を徹底する。暖冬により生育が早まると見込まれる場合には、防除適期を逸しないよう留意する。	2			
11		○		春期	生育状況の把握	病害虫全般	【重要】 最適な農薬の散布時期を判断するため、園内の展葉期、開花期、落花期を把握する。	2			
12			○	春期～夏期	害虫の捕殺	ハマキムシ類、クワコナカイガラムシ	ハマキムシ類の卵塊や、大枝の切り口等に集まるクワコナカイガラムシ成虫をすりつぶす。	1			
13			○		性フェロモン剤の利用	シンクイムシ類、ハマキムシ類等	性フェロモン剤を越冬世代成虫発生前までに設置し、密度抑制を図る。地域全体で施用すると効果的であるが、風通しの良い狭い園地や急斜地では効果が劣るため、設置本数を増やす等、工夫する。	1			
14	○			落花後	摘果	腐らん病	腐らん病対策として、ふじの摘果作業は、落花後の早い時期に行う。	1			
15	○			収穫期まで	下草管理	雑草	樹冠下の下草管理として、機械除草、稲わらマルチによる抑草、または草種等を考慮した除草剤散布を行う。泥の付着による果実の疫病を予防するため、土壌がぬかるむ際は除草作業を避ける。	1			
16		○			防除の要否の判断	果樹カメムシ類	果樹カメムシ類の発生量や発生時期は、年次や地域や園地で差があることから、発生予察情報を参考に、飛来のタイミングに合わせ（主に夕方）、園地内の見回り等を実施する。 山林の隣接園では、被害が多いことから特に発生状況に留意する。	1			
17			○	６月下旬	斑点落葉病対策	斑点落葉病	高温多湿でまん延し、７～８月が多発期となる。例年発生が多い園地では、６月下旬に薬剤散布を行う。	1			
18	○			収穫期	収穫時作業	疫病	果実に発生する疫病の対策として、降雨時に収穫は行わない。やむを得ず収穫する場合は、果実に泥が付着しないように行い、収穫果は野積みせず、速やかに冷蔵庫等に搬入する。	1			
19	○			通年	適正な樹勢の維持	白紋羽病、紫紋羽病	白紋羽病、紫紋羽病の対策として、樹勢に応じた着果量であるか確認し、着果量が多いようであれば摘果する。	1			
20	○				伝染源・発生源・中間宿主の除去	炭疽病、赤星病	炭疽病及び赤星病対策として、果樹園及びその周辺から伝染源（ニセアカシア、カシグルミ等）及び中間宿主（びゃくしん類）を伐採する。	1			
21	○				伝染源・発生源・中間宿主の除去	病害虫全般	徒長枝、ひこばえ、枝折れ等、病害虫の温床になる部分は、病害虫の発生時期を考慮して随時除去する。	1			
22	○				施肥管理等	白紋羽病、紫紋羽病等、雑草	未熟な堆肥を施用すると、白紋羽病、紫紋羽病等の病害、雑草の増加につながるため、完熟堆肥を適切に施用する。	1			
23	○				施肥管理等	病害全般	【重要】 樹勢や根の活性を良好に保ち、病害の発生しにくい樹体とするため、土壌診断の結果や樹の生育状況を踏まえた適正な施肥管理を行う。	2			
24	○				雑草管理	害虫全般	土着天敵の保護等のため、樹間は高刈り等ある程度下草を残す「適度な草丈」での草生管理を行う。	1			
25	○				排水対策	病害全般	排水溝の清掃等、園地の排水に努め、地表面の乾燥を図る。	1			
26	○				天敵類の活用	ハダニ類、アブラムシ類	ハダニ類やアブラムシ類の防除対策として、園内に発生する天敵類を把握し、保護する。	1			
27	○				放任園対策	病害虫全般	放任園　（樹）に発生する病害虫対策として、園地周辺における放任園等の確認を常に行う。放任園があった場合には、関係者間の協議により放任園解消のための取組を行う。	1			

28		○		通年	病害虫発生予察情報等の確認	病害虫全般	【重要】 病害虫防除所が発表する発生予察情報、農協等が発行する生産技術情報等を入手し、確認する。	2			
29		○			防除の要否の判断	ハダニ類	【重要】 ハダニ類は要防除水準に基づき、防除の要否を判断する。	2			
30		○			防除の要否の判断	病害虫全般	【重要】 ほ場内を見回り、病害虫の発生や被害を把握するとともに、気象予報等を考慮して防除の要否を判断する。また、薬剤散布予定日に降雨が予想される場合には、降雨前の散布を徹底する。	2			
31		○			農薬の使用全般	病害虫全般	薬剤散布後の防除効果を観察し、次回以降使用する農薬を決める。	1			
32		○	○		農薬のローテーション使用	病害虫全般	薬剤抵抗性の発現リスクを回避するため、同一系統の薬剤の連続使用や多用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。	1			
33			○		泥巻き	腐らん病（胴腐らん）	生育期は、腐らん病対策として病斑を広く削り取り、患部に水気のある土壌を張りつけ、当該部をビニール等で覆う。	1			
34			○		被害果の除去	シンクイムシ類	シンクイムシ類対策として、幼虫が脱出する前の被害果を採取し、６日以上水漬け等して次世代の発生密度を抑制する。	1			
35			○		被害部の除去	病害虫全般	【重要】 被害部位（被害枝、果実、花そう、葉そう等）を発見した場合には早期に除去し、園地外で適切に処分する。	2			
36			○		殺虫剤の選択	害虫全般	天敵や訪花昆虫の保護のため、これらに影響の少ない選択性殺虫剤（ＩＧＲ剤、ジアミド剤等）や生物農薬（ＢＴ剤、昆虫寄生性線虫剤等）を使用する。	1			
37			○		ハダニ類の薬剤防除	ハダニ類	ハダニ類に対し薬剤散布を行う場合には、薬液が葉裏にも充分付着するよう丁寧に散布する。	1			
38			○		農薬の飛散防止	－	園周辺の作物の栽培状況を把握し、薬剤散布等について近隣生産者と話し合いを行う等、連携して飛散防止対策を実施する。農薬散布時は、飛散防止ネットの設置、適切な散布ノズルの使用等、飛散防止措置を講じる。	1			
39			○		作業日誌	－	【重要】 各農作業の実施日、病害虫・雑草の発生状況、農薬を使用した場合の農薬の名称、使用時期、使用量、散布方法等の総合防除に係る栽培管理状況を作業日誌として別途記載する。	2			
40	○	○	○		研修会等への参加	－	【重要】 県や農業協同組合が開催する病害虫の総合防除、農薬の適正使用に関する研修会等に参加する。	2			
							合計点数				
							合計実践ポイント数				
							評価結果（%）				

【記入例・記入方法】

以下の※1～※4を参考にして数値を記入し、自身の総合防除の取組を確認してください。

番号	段階			実施項目		主な対象病害虫・雑草	実践ポイント	点数	チェック欄		
	予防	判断	防除	時期	事項				昨年度の実施状況	本年度の実施目標	本年度の実施状況
1	○			新植・改植時	健全な苗木の利用	病害虫全般	根頭がんしゅ病や紋羽病の発病、キクイムシの寄生がない苗を選択し、病害虫の発生に注意して植栽する。	1	1	1	1
2	○				健全な苗木の利用	黒星病	黒星病菌の薬剤耐性菌が発生している地域からは苗木を購入しないようにする。やむを得ず購入する場合は、植え付け後の経過を観察する。	1		1	
3	○			冬期～発芽前	せん定	病害虫全般	【重要】 整枝・せん定や間伐等を行い、樹冠内部の通風・採光を良好にするとともに薬剤散布時の散布むらをなくす。	2	2	2	2
4	○				せん定	腐らん病	腐らん病の発生の多い園地のせん定は、初冬や厳冬期を避ける。	1			
5	○				発生源の除去	害虫全般	古い資材（結束用ひも等）は害虫が潜みやすいので、適宜更新し除去する。	1	1	1	1
6			○		粗皮削り	ハダニ類、カイガラムシ類等	休眠期に粗皮削りを実施し、害虫（ハダニ類、カイガラムシ類等）の越冬密度を低減する。	1			
40	○	○	○		研修会等への参加	―	【重要】 県や農業協同組合が開催する病害虫の総合防除、農薬の適正使用に関する研修会等に参加する。	2		2	2
							合計点数		26	41	32
							合計実践ポイント数		50	50	50
							評価結果（%）		52	82	64

※1：実践ポイントに取り組んだ場合は、その実践ポイントの点数をチェック欄に記入します。
ただし、その実践ポイントが自身に該当しない場合は「ー」を記入してください（例：新植・改植を行わない場合は、新植・改植に関する実践ポイントは該当しません）。

※2：合計点数とは、自身が取り組んだ実践ポイントの点数の合計です。「チェック欄」の数値の合計を記入してください。

※3：合計実践ポイント数とは、自身に該当する実践ポイント全てに取り組んだ場合の点数の合計です。
番号１～40の点数の合計を記入してください（ただし※1のとおり、自身に該当しない実践ポイントは除外してください）。

※4：評価結果とは、自身に該当する実践ポイントのうち何%を実施できたかを示します。合計点数÷合計実践ポイント数×100により算出してください。
評価結果の数値は以下のように活用してください。

●評価結果から自身の総合防除の実践レベルを確認する。
80%以上　：総合防除実践度Ａ（総合防除を高いレベルで実践できている）
60～79%　：総合防除実践度Ｂ（総合防除を実践できている）
59%以下　：総合防除実践度Ｃ（総合防除実践レベルを更に向上させる必要あり）

●「今年度の実施状況」を「今年度の実施目標」と比較してどの程度目標を達成できたか確認したり、「昨年度の実施状況」と比較して総合防除の実践レベルをどの程度向上できたか確認する。
40%以上向上：総合防除実践度向上率Ａ
20～39%　：総合防除実践度向上率Ｂ
19%以下　：総合防除実践度向上率Ｃ